

大人の発音学習

大塚朝美

音声指導の研究に関わっていると、発音学習を開始する年齢の話題は避けられません。「音声の学習は何歳からスタートすると良いですか」と問われれば、答えは決まって「なるべく早い時期から」となるでしょう。言語習得においてある一定の時期を過ぎると習得が難しいとされる時期、いわゆる臨界期 (critical period) とよばれる時期があり、言語領域によってその時期は異なると考えられていますが、音声の習得はより年齢が低いほうがよいとされています。ですので、英語の音の導入も中学校より小学校で積極的に行うべきであるとするのが一般的です。しかしながら、英語を学ぶ大学生たちの 2 大目標として大抵挙げられるのが、①英語をネイティブのように話せるようになること、と②ネイティブのようなきれいな発音、です。発音指導にかかわる身としては、②の「きれいな発音」を望んでいる学習者の願いを叶えてあげたいと思っています。Andragogy という言葉をご存知ですか。Pedagogy (教育学) という単語に似ていますが、Andragogy とはもともとドイツの教育者アレクサンダー・カップが使用した言葉をアメリカ人のノウルズ (Malcolm Knowles) が子供の教育とは区別した「成人教育」を表す言葉として発展させました。つまり、成人の学習者には成人向けの教育方法で臨むことが必要であるという主張です。彼の主張する 4 つのポイントは、以下の通りです。

1. 成人は自分の学びについてその計画や評価にかかわることが必要である
2. (失敗も含めた) 経験が学びの基礎となる
3. 成人は自分たちの仕事や生活に直接かかわることにもっとも興味を示す
4. 成人は学習内容中心型ではなく、問題解決中心型である

これらのポイントで音声指導において最も注目したいのは、1 番目にある成人学習者自身が学習の計画や評価にかかわる、という点です。発音練習と言えば、思い浮かぶ練習方法としてはモデル音声のあとについて繰り返す (リピートをする) こと、そして、聞き取り (リスニング) によって音の間違いを聞き分けることだと思いますが、これらに学習計画や評価の要素を組み込めば、成人にとってはより効果的な音声学習が可能ではないかと考えています。具体的には、どのように発音学習をしていきたいかを計画 (プランニング) することからはじめ、目標設定、練習方法や回数などを自ら計画し、実際に自分の発音をモニターし、評価し、修正するといったことです。年齢の低い学習者にとっては、単純に音をまねる (リピート) ことで音声再現できるの

ですが、そこが難しい成人の学習者には別のアプローチが必要ではないかと思っています。

発音指導において、計画や評価を取り入れた方法がどれぐらい効果的なのか、現在研究を進めているところです。こういった方法を取り入れることで、発音指導の効果を上げることができれば、またご報告したいと思います。

(大塚朝美 専任講師／教員養成センター)
